

# アジア自貿圏構築を

## IT活用で提言

### 「民間に任せ、市場創出」

名護でフォーラム

「新世紀アジアとIT革命」をテーマに、アジアの声・ミレニアムフォーラム(主催・外務省、共催・県)が十一日、名護市の万国津梁館で開かれた。午後行われたパネルディスカッションには七氏が登壇。急速に発展するアジア各国のIT(情報技術)の現状が報告されたほか、ITで連携したアジア自由貿易圏の構築も提案された。

岡部徹氏(NHK解説 賢一氏(スタンフォード 大星公三氏(NTTドコモ アリフ・ヌシ氏(マルチ 毛会長)、段永基氏(北 京中関村科技発展公司総 經理)、李今龍氏(韓 国インターネット企業協 会会長)、モハメッド・

長、タイ)が登壇。基盤 整備や教育、アジアの共 生の視点から発言した。 IT産業集積の第二段 階にあるマレーシアのア リフ氏は、電子政府やス マートカード(免許証、 パスポート、健康情報な ど個人情報が入ったカー ド)の導入が進む先進地 としての現状を報告。 政府と民間の役割分担

について大星氏は「新し い市場の創出は民間に任 せ、その弊害になる規制 を外すのが政府の役割。 (携帯電話を)音声中心 からデータ通信ツールに 変えたiモードの例で分 かるように、競争の中か ら新しい発想は生まれ る」と市場構築は民間主 導で進めるべきだとし た。 また、ITによるアジ ア協力について今井氏は 「ITの進展を契機に、 アジア自由貿易圏の構築 を考えるべきだ。電子商 取引認証を巡る二国間協 定など新たな協力体制を つくるいい時期だ」と提 言した。



アジアにおけるIT社会の在り方が論議されたアジアの声・ミレニアムフォーラム「名護市、万国津梁館」

# 情報格差解消を

## アジアのIT社会討論

名 護 市



「新世紀アジアとIT社会」をテーマに開催された「ミレニアム・フォーラム」のパネルディスカッション＝11日午後、名護市の万国津梁館

二十一世紀の健全な情報技術（IT）社会を共に目指そうと、アジアのジャーナリストや通信業界関係者らが参加する「ミレニアム・フォーラム」が十一日、名護市の万国津梁館（ばんこくしんりょうかん）で開催された。

沖縄サミット（主要国首脳会議）で採択された「沖縄IT憲章」を受け、アジア地域でのIT進展による情報格差解消を図ることが狙い。ジャーナリスト十九人が参加した会議では、冒頭に中国の張亮・人民日報国際部副主任が「貧困地域では、IT産業育成や教育のための十分な資金がなく、情報格差が広がり続けている」と問題提起。パネルディスカッションでは、発展段階の異なるアジア各国のIT基盤整備の状況や戦略などが紹介された。

中国と韓国の参加者が政府の役割について「基本的な通信基盤を建設し、法律を整備することだ」と主張したのに対し、NTTドコモの大星公二会長は「完全に民間に任せるべきだ」と反論する場面もあった。